

特1 東日本大震災における東北歴史博物館の活動

●及川規(東北歴史博物館)

1. 東北歴史博物館の被害と復旧活動

3.11の東日本大震災で、東北歴史博物館(以下、東歴)も被災した。ボランティア1名が津波の犠牲となって亡くなるなど人的被害に加え、建物、設備、資料も被害を受けた。特に、離れたところに建つ別館(以下、浮島収蔵庫)の被害が大きかった(表1、図1-3)。建物の修繕、資料の修理・再整理・再配架、収蔵環境の整備など復旧活動は、国や民間の補助事業を活用しながら現在も継続している(表2)。

表1 東歴の被災状況

対象	内容
本館	●建物：建物周囲浮沈、内外壁剥離・ヒビ多数 ●今野家住宅：土台ずれ、漆喰・土壁部剥落、ヒビ多数 ●展示室等：展示ケースにキズ、照明部品の落下 ●展示資料：5点破損、11点転倒 ●収蔵資料：土器等十数点破損、箱十数点転倒
浮島収蔵庫	●建物：周囲沈下、通路陥没 ●収蔵棚：傾斜、移動 ●資料：箱数百点転倒、土器等約300点破損
設備等	●停電：～3/15、4/7～4/9 ●断水：～3/31、4/7～4/10 ●ガス停止：～4/5、4/7～4/10 ●空調停止：～4/19



図1 本館(地場の沈下)



図2 浮島収蔵庫(収蔵棚崩れ)



図3 破損資料(浮島収蔵庫)

表2 東歴の復旧活動

対象	内容
建物修繕	●H23：実施設計 ●H24：修繕工事(文部科学省公立社会教育施設災害復旧事業)
資料修理	●H23：仏像・埴輪・土器(120点)など ●H24：軸物、土器(181点)など ●財源：地域活性化交付金、住友財団文化財維持・修復事業助成、文化庁文化芸術振興費補助金、文化庁被災ミュージアム再興事業など
資料保全	●県内各一時保管施設の収蔵環境対策(連絡会議) ●水損・毀損資料等に対する応急措置・安定化処置(石巻市、石巻文化センター、気仙沼市リアス・アーク美術館、東松島市ほかの被災資料、連絡会議)
再整理	●被災した館蔵資料等の整理(調査カード作成、撮影・デジタルデータ作成(対象資料数約3300点))
収蔵場所の確保	●浮島収蔵庫への収納棚の増設 ●既存の県有施設の改修収蔵棚の設置・整理作業場所の整備(約1000㎡) ●プレハブの設置 ●資料の浮島収蔵庫からプレハブへの移動等土器・瓦類等、考古資料(約8,000箱)
被災資料を用いた展示	●特別展：①「美しき東北の街並みー鳥のまなざし 吉田初三郎の世界ー」、②「神さまさまの復興」 ●被災文化財の復興に係るパネル展示：『被災文化財復興への足音』 ●被災地における砂金取り体験教室：南三陸町 ●文化財の復興パネル展のホームページにおける公開 ●被災資料を活用した巡回展『救え！故郷の証ーつながれ！MIYAGIー』を開催(連絡会議)

2. 文化財レスキュー活動・宮城県被災文化財等保全連絡会議

2.1 文化財レスキュー活動

自館の復旧と並行しながら、震災直後から、学芸部長と各分野の代表による「東北歴史博物館資料保全委員会」を組織し、文化財レスキュー事業に備えた。はじめに館蔵資料・保管空間への影響や資料の混在を回避するため、館蔵資料を他室に移動して、レスキュー資料専用の一時保管場所の確保を行った。その後、他施設の被災資料の救出、他の一時保管施設の環境調査、被災館にかかわる資料修理、修理支援、後述する「宮城県被災文化財等保全連絡会議」の運営など、様々な活動への取り組んでいる(表3、図4-7)。さらに宮城県教育委員会文化財保護課が行う東日本大震災に伴う復興支援調査に対して1年間を通して職員2名が外向している。

2.2 宮城県被災文化財等保全連絡会議

宮城県内の文化財レスキュー事業に関係する機関が、行政や組織の枠組みを超えて連携、協働し、被災文化財等の保全管理することを目的として平成23年10月21日に組織された。現在29機関加盟している。当館は代表幹事兼事務局として、他機関との連携を図りながら上述した資料救出、応急処置、修理支援、環境調査、情報公開(巡回展)等の諸活動にあたっている(図8)。

表3 文化財レスキュー・資料保全活動

救出	●H23：石巻文化センター、石巻市杜鹿民俗資料収蔵庫、石巻市個人(2件)、気仙沼市唐桑漁村センター
応急処置	東松島市埋蔵文化財収蔵庫、東松島市(神社)、南三陸町(神社)、名取市(神社)、多賀城市(水損紙資料)、栗原市(寺院、神社) ●H24：南三陸町ひころの一時保管
環境調査	里、岩沼市水損文書資料、石巻市雄勝硯伝統産業会館、東松島市(寺院)、石巻市(寺院) ●H23：村田町仮収蔵庫、岩沼市ふるさと展示室、東北学院大学、亶理町立郷土資料館 ●H24：南三陸町入谷郷土伝承館、岩沼市下野郷学習館、岩沼市ふるさと展示室、石巻市旧湊第二小学校
修理支援	●修理代行：石巻市所蔵の掛軸等、女川町所蔵の絵画資料 ●修理支援：東北福祉大学芹沢銈介美術館考古資料、多賀城市埋蔵文化財センター歴史資料等、白石市教育委員会考古資料等、石巻市石巻文化センター阿部家歴史資料等、亶理町立郷土資料館歴史資料 ●文化財保存修復学会の協力を得て実施した



図4 瓦礫撤去・資料回収



図5 移送のための梱包作業



図6 応急処置



図7 くん蒸



図8 宮城県被災文化財等保全連絡会議

震災以降、これまでの活動の概略を示した。県内の文化財復興活動は緒についたばかりである。資料の安定化、修理、所蔵者への返却など課題は山積しているが、今後も粘り強く取り組んでいきたいと考えている。

救済委員会をはじめとする様々な機関の多大なご支援に心から感謝いたします。

2013 文化財保存修復学会 第35回大会(仙台)にて発表したもの